

2009/6/5付 建設通信新聞

【JCCA本部】整備局との意見交換会の記事が掲載されました

建設コン協意見交換会、8日中部からスタート

建設コンサルタント協会（廣谷彰彦会長）と国土交通省地方整備局など公共発注者との意見交換会が、8日の中部地区を皮切りに、7月17日の北海道まで全国9カ所で開かれる。建設コン協が用意しているテーマは、①技術力による選定②建設コンサルタントの新たな役割③品質の確保と照査——の3つで、2008年度の4チマからさらに絞り込んだ。前年度に焦点となつた低価格入札については、国土交通省が対策を打ち出しているものの、依然として收まっているため、今回も議論となりそうだ。

技術力による選定は、地方自治体でのプロポーザル方式

の普及、総合評価落札方式の適切な運用、意欲のある企業の参画を挙げている。国交省を中心国の機関は、プロポーザルを積極的に採用しているが、自治体は県レベルでも年間数件と少ないのが実態だ。技術競争を浸透させたため、自治体にプロポーザルの拡大を求める。

国交省が08年度に本格導入した総合評価方式は、実質的に価格競争に陥っているため、価格と技術の配点割合や評価の方法など問題点を議論する。

建設コン協としては、適用する業務の金額引き上げや参加者数を現行の10社程度から5社程度に絞り込むことを求め

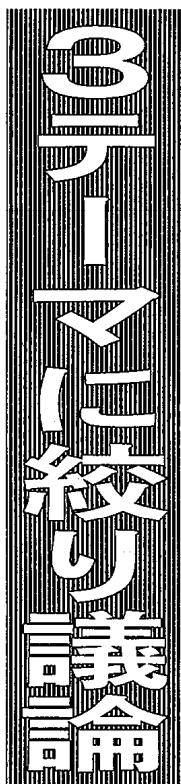
る方針だ。

プロポーザルや総合評価方式は、実績のない中小コンサルの場合競争の土俵にさらなることができないことが上がることで、意地競争にすぐれ、意欲のある企業には参加できる制度や仕組みを整えるよう要望する。

建設コンサルの新たな役割は、CM（コンストラクション・マネジメント）アドバイザーや発注者の代行者として、公

の仕組みづくりのほか、設計・施工一括発注方式の場合、コンサルがコンソーシアムで設計者として参加できるよう求められる。また、施工段階で設計者が参画する三者会議は、工事着手前だけでなく設計変更の協議・審査の段階でも参加するなどして、出席した場合の報酬は現行の直接入件費程度を改善するよう必要とする。前年度は、低価格入札とともに設計ミスが話題になっ

低入札、今年度も焦点



交換会の日程は、次のとおり。
▽中部▽8日、KKRホテル名古屋（名古屋市）▽近畿▽12日、KKRホテル大阪（大阪市）▽関東▽24日、関東地方整備局（さいたま市）▽九州▽30日、ホテルセントラーザ博多（福岡市）▽中国▽7月1日、八丁堀ヤンデ（広島市）▽四国▽2日、サンポート高松（高松市）▽東北▽7日、東北地方整備局（仙台市）▽北陸▽8日、新潟東映ホテル（新潟市）▽北海道▽17日、ホーリルム（札幌市）。デンパレス（札幌市）。